

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	83人	算数	83人	理科	83人
第5学年	国語	105人	算数	105人	理科	106人

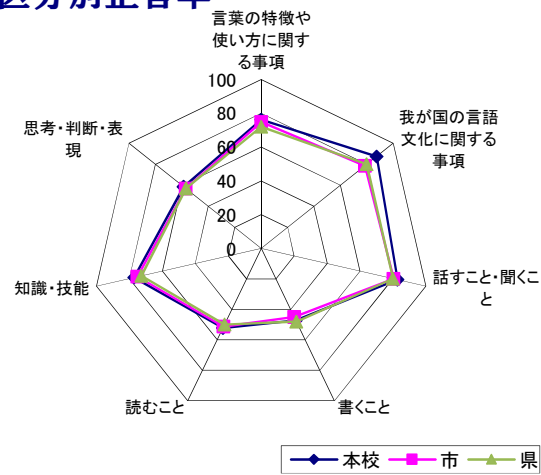
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.2	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.4	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	82.8	80.4	80.0
	書くこと	47.3	45.1	48.0
	読むこと	52.2	51.3	50.0
観点	知識・技能	77.2	75.2	72.8
	思考・判断・表現	58.6	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

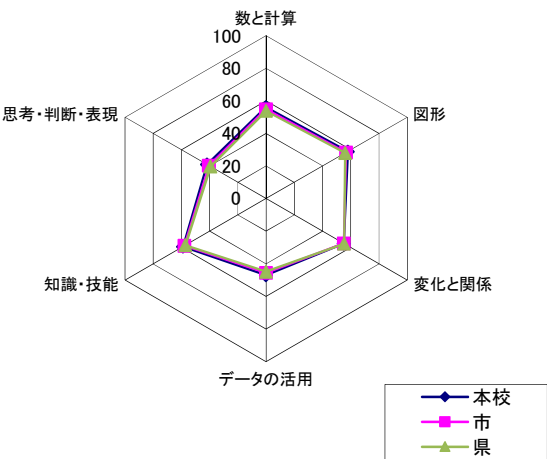
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均よりやや高い。 ○第4学年に配当されている漢字の読み、書きともによくできているが、漢字によっては市の平均回答率を下回るものもある。 ○熟語の漢字の組み合わせの決まりについて正しく理解することができている。 ●修飾と被修飾を捉える問題であったが、述語に係る修飾の関係性の理解に課題が見られる。	・漢字ドリルやAIDドリル等を活用し、反復練習を行うことで、漢字の読み書きに触れる機会を増やす。 ・授業及び課題学習において、連体修飾語と連用修飾語の扱いを復習したり、文章作成をしたりすることで、活用の定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○慣用句の意味を理解し、正しい表現方法で用いることができている。	・言葉の学習では、ことわざや慣用句、四字熟語等を取り入れ、児童の興味・関心を高めたり、日常でも活用したりできるようにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○話し手の工夫を捉えたり、話し手が伝えたいことの中心を適切に捉えることがよくできている。 ●自分の考えとその理由を、指定された書き方に合わせて文章で書くことについては、課題が見られる	・一人一人が相手が伝えたいことを考えて聞くことを意識させ、必要に応じてメモを取る、整理してまとめるなどの活動を取り入れる。 ・日常生活や他の場面においても、自分が伝えたい内容を明確にすることや、理由や根拠、意見の述べ方を工夫するなどの意識付けをしていく。
書くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○示された資料であるアンケート結果を読み取り、事実を捉え、伝える文章を書くことはよくできている。 ●内容の中心を明確にした上で、事実と自分の考えを書くことにやや課題が見られる。文章を書く習慣への未習熟さが見られる。	・自分の意見や考えをまとめ、その理由や根拠を明確にして書くことを意識できるように働きかける。 ・視写や短作文、日記等の指導を取り入れ、文章の書き方を確認する。また、書きやすいテーマを提示し文章を書くことに慣れさせる。
読むこと	平均正答率は市の平均よりやや高い。 ○単語の説明を探したり、文章をまとまりごとに段落にわけ、適した言葉を書き出す課題はよくできている。 ●文章から、登場人物の性格を読み取ることに課題がみられる。 ●文章を読んで、本文との内容を適切に理解したり、登場人物の心情を理解したりすることに課題が見られる。	・物語の読み取りでは、登場人物の気持ちや行動、言葉などから、人物の性格や行動の理由を読み取ったり想像したりできるよう、教材文の叙述に着目させて考える学習を取り入れる。 ・説明文の読み取りでは、それぞれの段落に書かれていることをまとめたり、キーワードを捉えたりし、文章の内容を適切に捉えられるようにしていく。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.1	54.9	53.7
	図形	57.9	56.6	56.1
	変化と関係	55.1	55.1	55.2
	データの活用	47.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	58.9	57.8	57.2
	思考・判断・表現	41.9	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

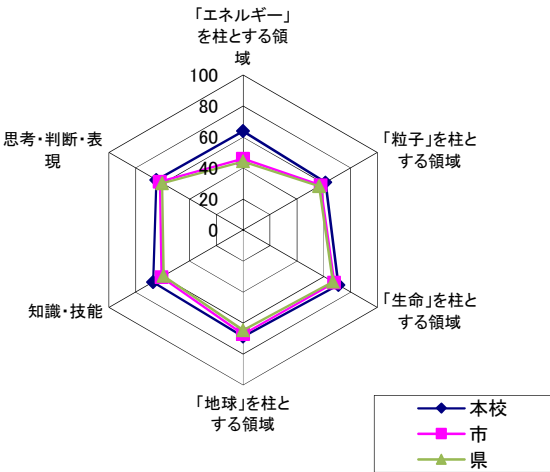
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と比べて高い。 ○ある数の大きさを、小数点の位置を移して考えることがよくできている。整数と小数に共通する数の仕組みに着目し、数と式の表現や計算する学習を進めてきた成果であると考えられる。 ●除法の性質を利用した計算の工夫について説明することに課題が見られる。	・今後とも、整数や小数の表し方の仕組みに着目して小数点の移動や計算ができるように、数の相対的な大きさを考察したり、十進位記数法としてまとめたりする学習を行っていく。 ・除法の計算については、3,4年生を通じて既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に検討して、よりよい方法を見い出す指導を工夫する。
図形	平均正答率は、市の平均と比べてやや高い。 ○展開図をもとに、立体が組み立てられるかどうか判断することがよくできている。図形を構成する要素や位置関係に着目し、平面上での表現や構成の仕方を実物を用いて考察する学習を進めてきた成果であると考えられる。 ●三角定規を利用した、正しい角度の読み取ったり考察したりすることに課題が見られる。	・立体の学習では、実物を用いて立体の性質や展開図の作図の仕方を主体的に考えたり、位置関係や表現方法を生活や学習に活用させる指導を行っていく。 ・分度器を使って角の大きさを測定する学習では、分度器の合わせ方の確認や、既習と測定の場合をもとにして、単位のいくつかで捉える仕方を考える学習を行うなど指導を工夫する。
変化と関係	平均正答率は、市の平均と比べて同じ。 ○伴って変わる二つの数量の関係について式に表すことの問題については市の平均よりやや上回っている。2つの量の関係や変わり方を表を見て気づくことができるよう学習を進めてきた成果であると考えられる。 ●表を横に見ることで、伴って変わる二つの数量の関係を読み取ることに課題が見られる。	・二つの数量の間の変化や対応の特徴を考察して規則性などを見付けていく学習で、表を用いて変化や対応の規則性を見い出すことを考察の基本とし、規則性を式に表す学習を行っていく。 ・身近な事柄から、伴って変わる二つの数量の関係を見出し、表を用いて数量間の変化やその特徴を考察して、規則性を考察していけるようにする指導を工夫する。
データの活用	平均正答率は、市の平均と比べてやや高い。 ○二次元表を読み取って書き込み、条件に当てはまる人数を答えることがよくできている。目的に応じてデータを分類整理したり、データの特徴や傾向に着目したりする学習の積み重ねの成果と考えられる。 ●グラフから正しく変化の様子を読み取ることに課題が見られる。	・身近なデータの分類整理について、観点別に見たり多面的な場合を考えたりしながら、論理的に起こりうる場合を調べたり、見落としや重なりがないように考えたりする指導を工夫する。 ・グラフの読み取りについて、目的意識を持って主体的に考えたり、得た結論について多面的に捉え、考察したりすることができるような学習を行っていく。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	63.8	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	61.4	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.9	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	68.8	67.2	64.6
観点	知識・技能	67.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	64.6	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市と比べると高い。 ○対象問題が少なかったこともあるが、回路のつなぎ方、検流計のよみ方の問題が、よくできている。	・各自の教材で実験を行っているが、何のための実験かめあてを明確にし、自分が作った回路を回路図にまとめたり、分かったことを自分の言葉でまとめさせたりすることを継続して指導していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市と比べると高い。 ○空気のあたためり方と身の回りの現象を関連付けて理解しているかを答える問題は、よくできている。 ○金属の熱による体積の変化についてはよく理解できている。 ●問題形式が図や説明文が長い問題の場合の無答率が高く、文章を読んで図と関連付けて考えることに課題が見られる。	・実験の時の視点、どこがどう違っているのかを明確にし、まとめる際も違いをキーワードにしてまとめる指導をしていく。 ・実験の結果を考察する際には、「なぜそのように考えたか」問い返したり、考えを見直したりする時間を確保したりして、自分で考え答えを導く力を高めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市と比べると高い。 ○ヒトの体の骨や筋肉の仕組みについては、よく理解し正答率が高い。 ●季節とイチョウの変化を答える問題は、正答率が低い。	・1年間を通して学校内の動植物を観察したり、季節に応じた話題を授業の始めに取り上げたりして、季節による変化を感じ取らせていく。 ・自分の体に関心をもたせ、他の動物と比較しながら共通点や相違点を見い出すようにする。実際に触れたり、写真やビデオ映像を見たりすることで筋肉と骨のはたらきをしっかりと押さえる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市と比べると高い。 ○星の色の違いについては、よく理解し正答率が高い。 ●雨の日の気温の変化を選び、理由を記述する問題は、正答率が低い。	・校外学習などで子ども科学館のプラネタリウムを利用した体験を生かして学習したことで天体に関する理解が深まっている。 ・まとめ、振り返りを書かせることで、科学的思考判断を表現する力を高めていく。

宇都宮市立明保小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する設問では、「家で学校の宿題をしている。」において、肯定的に回答している児童は県よりは低い、「学校授業の予習や復習」、「テストで間違えた問題について勉強している」などの設問では、肯定的に回答している児童が県の平均を上回っている。学習時間に関する設問においても、30分以上から2時間以内と回答した児童が多く県よりも高いが、「まったく勉強しない」と回答した児童は県よりも多い。また、宿題以外に自分で考えた学習に取り組んだり、自分で計画を立てて学習したりしていると回答している児童の割合は、いずれも県の平均を上回っている。これは、家庭学習強化週間を設けたり、自主学習の仕方を指導したりするなど、学校全体で家庭学習の取り組み方について指導してきた成果と考えられる。今後もこの取り組みを継続するとともに、家庭学習において、授業の復習やテストで間違えた問題を解き直したりするなど、より学力向上につながり、達成感が得られる家庭学習ができるように指導していく。また、「まったく学習していない」と回答している児童がいることから、個別に課題を選択できるように準備をしていく。

○「自分には、よいところがあると思う」「しよ来の夢や目標をもっている」「自分をもって能力を十分に発揮したい」では、いずれも県の平均を上回っていることから、児童は自分のよさに気付き、またその能力を生かしたいと思いながら、日々の生活を送っていることが分かる。さらに、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」の設問においても、肯定的な回答をしている児童が、県と同程度であり、家族との温かな関係が、児童の自己肯定感を高めていることが伺える。今後も、授業や帰りの会等において、お互いのよさを見つけ、伝え合う活動を継続し、さらに、家庭への情報発信を行っていく。

○読書に関する設問では、1日当たりの読書時間は10分～30分と回答した児童の割合が多く、2時間以上読書をしている児童の割合も多い。さらに、全く読まないと回答している児童の割合は低いことから、読書量が多いことが分かる。また、1か月当たりに読む本の冊数についても、1～2冊と回答している児童の割合は県の平均に比べると高く、読む本の数が少ないことや読書の時間から個人差が大きいということが分かる。今後は、図書館司書との連携を図り、学年に見合った内容の本や児童が興味をもって読むことができる本を紹介するなど、より本に親しみ、読書の習慣が身に付くように指導していく。

●「授業では、自分の意見を発表する機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問では、肯定的回答がそれぞれ80%を超えており、話し合いの時間や発表する機会が設けられていることが分かる。一方で、「グループの話し合いに自分から進んで参加している」では、肯定的回答が66.7%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、肯定的回答が45%に留まり、県の平均よりも低い傾向にある。授業の様子からも、自分の意見や考えをもっていても、それを相手に伝えることが苦手であったり、うまく伝えることができなかったりしている。今後は、ペアやグループ等で自分の考えを伝える経験を積み重ね、それぞれの考えや意見のよさを認め合いながら、自信をもって発表できるように指導していく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童は、69%であり、県の平均よりやや高い。さらに「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている」「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳を使って調べている」の設問に肯定的に回答した児童は、県の平均より低い。今後は、ふり返りを書く時間を設けたり、分からない学習内容を辞書やインターネットで調べたりするなど、様々な活動と教科との関連を図りながら、日常生活の中でも文章を書いたり辞書を使ったりする経験を積み重ねられるように工夫していく。

●「早ね、早起きを心がけている。」「毎日、同じくらいの時こくねている。」の肯定的回答は、県の平均よりもやや低い。その要因として、「平日にテレビやDVD、動画を見る時間が2時間以上」「平日にテレビゲームをする時間が2時間以上」と回答した児童はどちらも県の平均よりも高いことが挙げられる。テレビでYouTubeなどの動画サイトが視聴でき、個人のスマートフォンやタブレットを持つ児童も増えてきているなど、熱中しやすい環境があることも一つの要因だと考えられる。デジタル機器を使う時間を各家庭で決めることを呼びかけたり、誘惑に負けずに自分で時間の管理をしたりするなど、規則正しい生活を送れるように指導していく。

宇都宮市立明保小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	宮っ子学力ステップアップシートやAI型学習ドリルの活用を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	4・5年生ともに、前学年に配当されている漢字の読みはよくできているが、書くことや計算など、基礎的な知識や技能に関わる問題における平均正答率が、県や市の平均よりも低いものがある。「学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」には、学年目標に対して、4年生では「30分以上」の回答が市や県の平均を下回り、5年生では、「1時間以上」と回答する割合が上回っている。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	授業の導入では課題を明確にし、展開では、個別に考える時間を確保し、ペアやグループで課題解決を行い、終末では学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に肯定的に回答した児童の割合は、4、5年生ともに、県や市の平均を上回っている。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は8割で県や市の平均より上回り、5年生は8割弱で、ほぼ同じである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙調査において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合が、4年生は64.7%、5年生は68.8%いる。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならぬ語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程で励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において、「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4、5年生ともに県や市の平均より低い。「疑問に思うことは、分かるまで調べたい」に肯定的に回答した児童が、5年生で県や市よりも低い。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的に行う。その際に、「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させると共に、学習環境が整うように家庭と連携を図りながら、保護者へ働きかける。 関心意欲を高め、粘り強く学習に取り組めるように授業を工夫しながら、個別最適な方法で、家庭学習の学びにもつなげられるようにする。